あまりのあるわり算のしかた

43 ÷ 5 の計算のしかたを考えてみましょう。

5 × 1 = 5	…	38	あまる
5 × 2 = 10	…	33	あまる
5 × 3 = 15	…	28	あまる
5 × 4 = 20	…	23	あまる
5 × 5 = 25	…	18	あまる
5 × 6 = 30	…	13	あまる
5 × 7 = 35	…	8	あまる
5 × 8 = 40	…	3	あまる
5 × 9 = 45	…	2	たりない

5のだんの九九で、答えが43になるものはありませんが、
 5のだんの九九を使^{つか}って答えをもとめることができます。
 答えが43より小さい数で43に一番近い九九
 5 × 8 = 40を使^{つか}って、8あまり3となります。

$$43 \div 5 = 8 \text{ あまり } 3$$

わりきれる・わりきれない

わり算で、あまりがないときを「わりきれる」といいます。

$$28 \div 7 = 4$$

あまりがあるときは「わりきれない」といいます。

$$30 \div 7 = 4 \text{ あまり } 2$$

わり算のあまりの大きさ

わり算の、わる数とあまりの大きさをくらべてみましょう。

わる数					あまり	
1	5	÷	3	=	5	
1	6	÷	3	=	5	あまり 1
1	7	÷	3	=	5	あまり 2
1	8	÷	3	=	6	
1	9	÷	3	=	6	あまり 1
2	0	÷	3	=	6	あまり 2
2	1	÷	3	=	7	

わり算のあまりは、かならずわる数よりも小さくなります。

あまりのあるわり算をつかう問題(1)

ある数をいくつか同じ数ずつ分けるときには、わり算をします。

答えを見つけるときは、わる数のだんの九九を使います。
あまりは、わる数より小さくなるようにします。

13このみかんを、4人で分けるときの、1人ぶんのこすうと
あまりのこすうは、つぎのような式で書けます。

$$13 \div 4 = 3 \text{ あまり } 1$$

1人ぶんのこすう

あまりのこすう

あまりのあるわり算をつかう問題(2)

ある数をいくつかに同じ数ずつ分けるときには、わり算をします。
あまりのいみをよく考えるようにします。

13このおにぎりを、おさらに分けます。1まいのおさら
に4こずつのせると、おさらは何まいいりますか。

$$13 \div 4 = 3 \text{ あまり } 1$$

おにぎりを4こずつのせられるおさらは、**3まい**できます。

あまりの**1**は、**あまったおにぎり**です。このおにぎりをのせるのに、
おさらがもう1まいいります。

ですから、おさらはぜんぶで、 **$3 + 1 = 4$** まいいります。

答え 4まい